

## 「実験動物感染症の現状」について

日本実験動物学会 実験動物感染症対策委員会

日本実験動物学会の実験動物ニュースで連載している「実験動物感染症の現状」は、2011年の実験動物ニュース60巻第1号から始まりました。その号の「実験動物感染症対策委員会からのお知らせ」には当時の喜多正和委員長により、当委員会の活動はすべての実験動物の感染症を対象とし、感染症関連情報の会員への提供を最重要項目とすると書かれています。

それ以来「実験動物感染症の現状」ではマウス・ラットなどの齧歯類から、サル類、ブタ、ゼブラフィッシュまで多くの実験動物の感染症や生物材料の微生物汚染、動物実験施設における微生物管理方法などが取り上げられてきました。

本稿では、「実験動物感染症の現状」ならびに実験動物感染症対策委員会がシンポジウム等で取り上げた内容をまとめ、リスト化しました。

表1は、実験動物ニュース60巻第1号から同68巻第2号までの「実験動物感染症の現状」全記事のリストです。表2は、実験動物感染症対策委員会シンポジウムの講演タイトルリストです。

「実験動物感染症の現状」で扱った記事については、日本実験動物学会の実験動物ニュースにすべてのバックナンバーが載っておりますのでご利用ください。

また、「実験動物感染症の現状」の初期の記事と、実験動物感染症対策委員会シンポジウムの一部（表1と表2に「収録」と書かれている記事と講演記録）については、2016年に冊子「実験動物感染症と感染症動物モデルの現状」（公益社団法人日本実験動物学会発行）としてまとめられていますのでお持ちの方はぜひ有効活用してください。

動物実験のあり方が変わると、関係する感染症も変わります。実験動物感染症対策委員会は今後も、日本実験動物学会会員に役に立つ情報収集と提供に努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

2019年6月

表1 「実験動物感染症の現状」記事リスト

発行年	掲載番号	タイトル	著者名	著者所属(執筆当時)	対象動物	病原体種別
2011	Vol.60. No.1	マウスノロウイルス	池 郁生	独立行政法人理化学研究所バイオリソースセンター実験動物開発室	マウス	ウイルス
2011	Vol.60. No.2	マウス肝炎ウイルス	山田靖子	国立感染症研究所動物管理室	マウス	ウイルス
2011	Vol.60. No.4	サルレトコウイルス 4 型 (SRV-4)	喜多正和 <sup>1</sup> , 岡本宗裕 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 京都府立医科大学大学院医学研究科実験動物センター <sup>2</sup> 京都大学霊長類研究所人類進化モデル研究センター	サル	ウイルス
2011	Vol.60. No.5	ボルテテラ属菌	林元展人	公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンター	イス・ウサギ・ブタ・モルモット・ラット・マウス	細菌
2012	Vol.61. No.1	リンパ球性脈絡叢膜炎ウイルス	高木利一 <sup>1</sup> , 大沢一貴 <sup>1</sup>	<sup>1</sup> 長崎大学先端生命科学研究所支援センター・比較動物医学分野 <sup>2</sup> 日本エスエルシー(株) バイオテックセンター・品質管理部	マウス・ラット・モルモット	ウイルス
2012	Vol.61. No.2	げっ歯類バルボウイルス	園田 智	自治医科大学実験医学センター	マウス・ラット	ウイルス
2012	Vol.61. No.4	齧歯類のニューモシステス感染症	池 郁生	理化学研究所バイオリソースセンター実験動物開発室	マウス・ラット	真菌
2012	Vol.61. No.5	結核	板垣伊織 <sup>1</sup> , 山田靖子 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 社団法人予防衛生協会 <sup>2</sup> 国立感染症研究所動物管理室	サル	細菌
2013	Vol.62. No.1	肺バスマツレラ	川本英一 <sup>1</sup> , 喜多正和 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 東京医科大学動物実験センター <sup>2</sup> 京都府立医科大学大学院医学研究科実験動物センター	マウス・ラット・モルモット	細菌
2013	Vol.62. No.1	ハンタウイルス感染症	右川二郎	北海道大学大学院医学研究科微生物学講座	ラット	ウイルス
2013	Vol.62. No.2	マイコプラズマ属菌	後藤一雄	帝京大学医療技術学部	マウス・ラット・ウサギ・モルモット	細菌
2013	Vol.62. No.3	B ウイルス	大沢一貴	長崎大学先端生命科学研究所支援センター・比較動物医学分野	サル	ウイルス
2013	Vol.62. No.4	E 型肝炎ウイルス	岡本宗裕	自治医科大学医学部感染・免疫学講座ウイルス学部門	ブタ	ウイルス
2014	Vol.63. No.1	サルレトコウイルス、その後	岡本宗裕	京都大学霊長類研究所人類進化モデル研究センター	サル	ウイルス
2014	Vol.63. No.2	<i>Corynebacterium bovis</i> によるげっ歯類の皮膚炎について	渡邊利彦	中外製薬(株)	マウス	細菌
2014	Vol.63. No.3	CAR パパルス感染症	池 郁生	独立行政法人理化学研究所バイオリソースセンター実験動物開発室	マウス・ラット・ウサギ・ブタ	細菌
2014	Vol.63. No.4	アストロウイルス	丸山 滋	日本チャールス・リバー株式会社	マウス・ラット・ウサギ	ウイルス
2015	Vol.64. No.1	センダイウイルス (Sendai virus: HVJ)	山田靖子	国立感染症研究所動物管理室	マウス・ラット・ウサギ・モルモット	ウイルス
2015	Vol.64. No.2	緑膿菌 ( <i>Pseudomonas aeruginosa</i> )	喜多正和	京都府立医科大学大学院医学研究科実験動物センター	マウス・ラット・モルモット	細菌
2015	Vol.64. No.4	ヘリコバクター属菌感染について	山中仁木, 大沢一貴	長崎大学先端生命科学研究所支援センター・比較動物医学分野	マウス・ラット・モルモット・ほか	細菌
2015	Vol.64. No.4	黄色ブドウ球菌 ( <i>Staphylococcus aureus</i> )	森田肇子, 林元展人	公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンター	マウス・ラット・モルモット・ほか	細菌
2016	Vol.65. No.2	ティザー菌 ( <i>Clostridium piliforme</i> )	園田 智	自治医科大学実験医学センター	マウス・ラット・モルモット・ほか	細菌
2016	Vol.65. No.2	サル T 細胞白血病ウイルス (simian T-cell leukemia virus: STLV)	明里宏文, 村田めぐみ	京都大学霊長類研究所	サル	ウイルス
2016	Vol.65. No.3	マウスロタウイルス	渡邊利彦	中外製薬株式会社	マウス	ウイルス
2016	Vol.65. No.4	齧歯類分離 CAR パパルスの新学名、 <i>Fibrobacterium rodentium</i> について	池 郁生	国立研究開発法人理化学研究所バイオリソースセンター実験動物開発室	マウス・ラット	細菌
2017	Vol.66. No.1	ゼブラフィッシュの感染症	丸山 滋	日本チャールス・リバー株式会社	ゼブラフィッシュ	細菌・ウイルス・寄生虫
2017	Vol.66. No.2	細菌性赤痢	山田靖子	東京大学大学院農学生命科学研究科	サル	細菌
2017	Vol.66. No.3	コモンマウスモセットの腸管病原性大腸菌感染症	林元展人	公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンター	コモンマウスモセット	細菌
2018	Vol.67. No.1	生物由来試料等の微生物検査について	大沢一貴 <sup>1</sup> , 林元展人 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 長崎大学先端生命科学研究所支援センター比較動物医学分野 <sup>2</sup> 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンター	全般/管理	全般
2018	Vol.67. No.2	<i>Macaca</i> 属のサルにおける <i>Bartonella quintana</i> 感染状況	佐藤真伍	日本大学生物資源科学部獣医公衆衛生学研究室	サル	細菌
2018	Vol.67. No.3	ペットおよび野生動物からの実験動物感染症リスクと対策	園田 智	自治医科大学実験医学センター	ペットマウス・野生マウス	全般
2018	Vol.67. No.4	感染症のモニタリングと発生時の対応について —中外製薬株式会社における手順の紹介—	渡邊利彦	中外製薬株式会社	全般/管理	全般
2019	Vol.68. No.2	肺バスマツレラの細菌分類再編と感染動物モデルの現状」に取載	佐々木啓	順天堂大学スポーツ健康科学部健康科学環境衛生学教室	マウス・ラット	細菌

2011 年～2015 年掲載分は「実験動物感染症と感染症動物モデルの現状」に取載。

表2 日本実験動物学会総会実験動物感染症対策委員会企画シンポジウム記録

開催年	開催学総会	開催都市	シンポジウムタイトル	講演タイトル	講演者名	講演者所属
2014	日本実験動物学会総会実験動物感染症対策委員会企画シンポジウム	札幌	シンポジウムタイトル ヒト感染症の動物実験モデル	講演タイトル ヒトマウスを用いたヒトウイルス感染症モデルの樹立とその応用 インフルエンザウイルスの感染動物モデル ～フェレット編～ エボラウイルス病の動物モデルとワクチン開発 コモンマーモセットを用いた感染症モデル	岡田誠治 渡辺登喜子 津田祥美 伊藤 志雄	熊本大学エイズ学研究センター岡田プロジェクト研究室 東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ウイルス感染分野 北海道大学大学院医学研究科 病原微生物学分野 公益財団法人実験動物中央研究所
2015	第 62 回日本実験動物学会総会実験動物感染症対策委員会企画シンポジウム	京都	感染症の予防と治療における動物実験	動物モデルを用いたヘリコクター・ヒロリ感染症の治療法の開発 霊長類モデルを用いた HIV 感染症の予防・治療法開発 エボラウイルス・予防・治療薬開発の現状 デングウイルス感染症モデルの開発	喜多正和 高田礼人 高崎智彦	京都府立医科大学大学院医学研究科実験動物センター 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 国立感染症研究所ウイルス第一部
2016	第 63 回日本実験動物学会総会実験動物感染症対策委員会企画シンポジウム	川崎	微生物検査におけるイノベーションと実際	現場から見た微生物検査におけるイノベーション 細菌同定検査におけるイノベーション 血清検査におけるイノベーション	林元展人 丸山 滋 池 郁生	公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンター 日本チャールス・リバー株式会社 理化学研究所バイオリソースセンター
2017	第 64 回日本実験動物学会総会実験動物感染症対策委員会企画シンポジウム	郡山	コモンマーモセットの感染症 感染症	コモンマーモセットの感染症の総論と京大霊長研での事例 臨床現場の治療症例と感染症モデル コモンマーモセットの 2 種類と Clostridium difficile 感染症 コモンマーモセットの腸管病原性大腸菌感染症	岡本宗裕 片貝祐子 井上貴史 林元展人 林元展人 小山公成	京都大学霊長類研究所 一般社団法人予防衛生協会 公益財団法人実験動物中央研究所 マーモセット研究部 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンター アステラスリサーチテクノロジーズ株式会社
2018	第 65 回日本実験動物学会総会実験動物感染症対策委員会企画シンポジウム	富山	実験動物施設での品質管理 ～微生物制御の観点から	製薬企業における実験動物の品質管理 ～微生物学的品質～ 教育研究機関が抱える実験動物の感染リスクを考える 日本クレーアにおける微生物制御と環境制御 プリーダートとしての品質管理 - グローバル企業の立場から 動物実験施設における感染症管理体制	大沢一貴 後藤賢之 丸山 滋 池 郁生	長崎大学先端生命科学研究所支援センター 日本クレーア株式会社 日本チャールス・リバー株式会社 国立研究開発法人理化学研究所 バイオリソース研究センター 実験動物開発室 中外製薬株式会社
2019	第 66 回日本実験動物学会総会実験動物感染症対策委員会企画シンポジウム	福岡	動物実験施設における感染症管理体制の実際 ～微生物検査の今後を見据えて～	微生物モニタリングをどのようにしていけばよいか? ～製薬会社の担当者から課題提議～ 実中研 ICLAS モニタリングセンターにおける新技術の応用 ～MALDI-TOF MS 導入を例に～ 実験動物プリーダートにおける感染症管理体制 医科学実験用クニクイザルの微生物学的管理 熊本大学動物資源開発研究施設 (CARD) における微生物モニタリングの現状と課題	渡邊利彦 林元展人 丸山 滋 中村紳一朗 鳥越六輔	中外製薬株式会社 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンター 日本チャールスリバー モニタリングセンター 滋賀医科大学動物生命科学研究所 熊本大学 生命資源研究・支援センター

2014 年、2015 年開催分は「実験動物感染症と感染動物モデルの現状」に取載。